市民文芸

応募方法　一人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0257白石市字亘理町37-3、白石市情報センターへ。短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。
Eメールでも応募できます。（koho@city.shiroishi.miyagi.jp）

歌壇

高橋辰男 選

雨降らず酷暑つづきて狭庭辺の散水朝夕二回
となりぬ　岡崎　澄子

玉川の磧を行けば逝きし子に会える気がして
どこまでも行く　阿部みさ子

かよわそうされども強く秋風に耐えるコスモ
ス吾に似て好き　村山美代子

雑踏をぬけ来て見上げし空高く十字架立てり
娘の学び舎に　黒澤　修子

練習の成果をみてと拝まれてプールサイドで
泳ぐ孫見る　鈴木セツ子

形良き三波石求め庭隅に据えれば見事芝生に
映ゆる　大槻　正兄

老人介護の講習受けしは何時ぞやと修了証書
を取り出して見ゆ　山田　濱

音響の悪いラジオに涙した父母の思い出六歳
の夏　大庭　良子

仲秋の名月の夜の水害をテレビに見つつ痛ま
しきかな　岩松　貞子

一人居の秋の夜長をたどたどと誰はばからず
大正琴弾く　阿部はぎの

評　一首目。今年の夏の猛暑と乾燥は庭木にとっても大変で、一日二回の散水となった。二首目。賽の磧ならぬ玉川の磧を遠ざかる姿が見えるようだ。亡き子をしのぶ思いが切実。三首目。弱そうで実は強さを秘めているコスモスを発見して、自分と重ね合わせた歌。

俳壇

遠藤秋尾 選

突然に残る暑さの失せにけり
伊達廟に使えるごとくちちろ鳴く　山家　弘子

空の藍しきりに星の飛ぶ夜なり　日下　文

子等は出て野良にひとりの敬老日　佐藤　周子

漁火や島の民宿明易し　高橋　正男

唐辛子根の着きしまま干されけり　三浦　愛嶺

流灯に光と影の別れあり
台風に飛機やめ新幹線の旅　岩沢　伍峯

干天や大根種を蒔きなほす
ななかまどダムの波紋が朱砕く　大庭　良子

◆中学生特別作品（小原中3年生）

十五夜のお月様はおいしそう　高子たちばな

あさがおが朝の光を浴びている　川村　静恵

鈴虫の鳴き声聞ける静かな夜　制野　リエ

もみじの葉くるくるまわっておちてゆく　大浦　優子

スイカ割り右だ左だ手がしびれ　黒田　和宏

赤とんぼ今や追いかけられもせず　齋藤　新

いつまでも君がいた夏わすれない　四竈　聖子

黄色い穂秋がきたなと思いをり　半澤　南

山々はもみじちる散る風にちる　柴山　光

柳壇

山田風流 選

遺産分け遺産が無くて睦まじい　佐藤　武雄

東京へ子が疎開する三宅島　鈴木　希市

コンバイン案山子の職を失わせ　川村　静恵

可笑しさも淋しさもある物忘れ　大野　修一

金利解除タンス預金が薄目あけ　四竈　英夫

子が育ち金食い虫にみえてくる　平間　大恵

ＢＳデジタル見たし買いたし金がない　高橋　要一

言いすぎた心しずめる深呼吸　米沢　礼子

年輪を重ねがんこの角も溶け　一條　芳子

フルムーン若さ確認して帰り　大沼　妙子

評　一句目。無い遺産は分けようがない。従って争うこともない、兄弟は従来通り仲むつまし い。自己中心の今の世の中、子らの将来を思えば遺産を残さないのも親心。二句目。戦時中は東京から田舎へ疎開したものだが。三句目。稲刈りが済めば案山子はお役御免、減反ですまず青刈りまで拡大。百姓は生かさず殺さずどころか安楽死させる気か。案山子どころか百姓がお役御免にならなければよいがと懸念する次第。

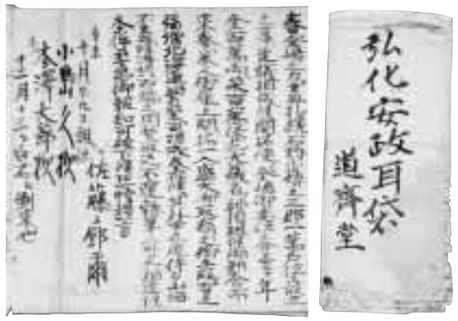
白石の古文書 ⑦

弘化安政耳袋１　武藤家文書

表紙には、弘化安政耳袋・道斉堂とあり、二つ折り横半帳で十三丁・13×31㎝の大きさである。筆録者の道斉堂とは、武藤十郎右衛門（広報10月号参照）の隠居後の呼び名である。

この耳袋は、北海道開拓に参加した人たちが、白石に残留した知人や友人にあてた書簡の写しで、入植までの災難や当時の開拓地の様子などが克明に書かれており、珍しい資料である。

札幌地域への入植は明治四年から始まり、九月十二日・第一陣四



○一名が咸臨丸で寒風沢港を出港、九月十九日には第二陣・二〇六名が庚午丸に乗船、札幌に向かった。

書簡の第一報の発信者は佐藤廓爾である。

九月十二日、寒風沢港を出港した咸臨丸は、十七日函館に無事入港し二十日まで停泊した。二十日七ツ時ころ（午前四時ころ）、小樽に向け出港したが、六里ほど先の泉沢村沿岸の岩石に乗り上げて、破船してしまった。

泉沢村からの助け船で、二十一日の朝までに全員無事救助されたが、荷物はすべて水に漬かってしまった。しかし、幸いにもすべて陸揚げできた。その後、咸臨丸は沈没してしまった。一行はそのまま函館に滞留、十月三日着港した蒸気船庚午丸に第二陣の人たちと同乗し、十月七日に小樽に上陸した。こうしてやっと目的の開拓地に到着、村づくりから始め開拓事業に取り組むことができた、と…。

咸臨丸沈没という災難から、開拓村設営に至るまでの近況を記した書簡で、発信は十月二十九日、着信は十二月十三日となっている。

（白石市図書館所蔵）

マイサークル 115

カラオケで身も心もはつらつ

『文化歌謡教室』は、歌好きな仲間が集まって６年前にできました。中央公民館で週２回、笑顔がとても素敵な村上悦子先生の指導の下、会員一体となって、「楽しみ」をモットーにレッスンしています。

ストレスの消化剤として一番効き目のあるカラオケ。心の病などはすべてなくなり、‘身も心も’はつらつになります。

今年７月30日には、中央公民館大ホールにおいて第１回チャリティー発表会を行いました。その収益で車いす２台を購入し、市内の障害を持った方々に使用していただくため、白石市へ寄贈しました。

文化歌謡教室は、中央公民館で木曜日と金曜日の18:30から21:00まで行っていますので、ぜひ一度いらしてください。お待ちしています。

（問い合わせ：村上☎26-3284）

カロラインの 国際コーナー
International Corner

先月、友達の結婚式に出席するため、人口10億人、カレーで有名なインドに行って来ました！ガイドブックに書かれているように、道路に牛がぶらぶら歩いていました。食べ物は辛かったけど、とても楽しくて、いい旅でした！

日本やアイルランドの結婚式と違って、インドの結婚式は３日間にも渡ります！１日目に「メヘンヂ」という式がありました。この式では花嫁の手と足にヘンナという染料を使って、いろいろな模様が描かれました。描かれたばかりのときはグリーンですが、だんだん赤くなります。この式は色が変わると同じように、女も結婚すると変わるという意味があるそうです。

２日目は「サンギット」という式です。ここでは、花嫁の家族が娘の結婚への喜びを皆に表すために、特別の歌を歌って踊りました。

３日目は結婚の日でした。最初に花嫁の家族と友達が、花嫁がもっときれいになるように、インドのスパイスとヨーグルトのミックスを顔と手に塗りました！その後、「チューラ」という式がありました。チューラでは、花嫁の親族が花嫁に特別の腕輪を両手に20本ずつ付けさせました。その腕輪は結婚の目印で、少なくても花嫁は腕輪を１カ月間付けなければなりません！そしてその夜に、ウェディングレセプションがありました。

とても面白くて良い経験でした。インドに行けて、結婚式を経験できて良かったと思います！

◀「チューラ」という式で両手に腕輪を付ける花嫁